

「バス危機突破 総決起大会」の開催について

日本バス協会は、令和7年11月11日(火)午後、自由民主党本部8階ホールにおいて「バス危機突破 総決起大会」を開催しました。

当日は、全国からバス業界関係者約300名が集結するとともに、バス議員連盟を中心に60名の自民党国会議員の先生方や、国土交通省幹部の皆様にもお越しいただきました。

バス事業は、深刻な運転士不足や燃料高に直面し、危機的な状況にあることから、人材確保や路線の維持、自動運転など各種対策への支援を強く求めました。

清水会長は冒頭の挨拶で「バスは人手不足で危機にある。運転士がいなければ路線は成り立たない。国家としてこの危機突破をお願いしたい」とし、

【軽油の暫定税率廃止と交付金維持】

【自動運転バス支援強化、予算倍増】

【運転士確保予算大幅増額、運転士の労働時間規制の緩和】

【EVバス減税措置の拡充、5年間に】

【外国人バス運転士、N4を早期実現】の5項目を掲げ、ご出席の先生方へ支援を強く訴えました。



(清水会長ご挨拶)

続いて、内閣総理大臣 高市早苗先生からの「高市内閣では、地方が持つ伸び代（しろ）を活かし、そこに暮らす住民の皆様の暮らしと安全を守り、若者や女性を含めて、地方に住み続けられるようにします。そのためには、地方の社会経済の基盤であるバスを代表とする地域公共交通が、持続可能であることが極めて重要で

す。政府としても、自動運転の拡大を含め、制度、予算等あらゆる政策ツールを総動員して取り組んでまいります。また、先週、与野党6党で、軽油引取税の暫定税率の来年4月での廃止について合意しました。」との祝辞を読み上げ、次に、バス議員連盟会長の逢沢一郎先生からは、「バス事業を通じて国民の皆さんの移動の自由、あるいは移動の利便の確保に、本当にエッセンシャルワーカーとしての精神自覚をお持ちいただき、懸命にご努力をいただいている。皆さま方の事業の安定、そして未来に向かって持続可能な体制を作っていく。全力を尽くして頑張ってください。」とのご挨拶をいただきました。



(逢沢会長ご挨拶)

御来賓の先生方からは、まず自由民主党・幹事長の鈴木俊一先生から「地方の活力を引き出すために最も重要となるのが、地域の暮らしに寄り添い、きめ細やかな路線の中で地域の足元を支えてくださっているバス事業の皆様方である、そのように考えております。本日、5つの決議事項をいただくことになっております。いずれの事項も、大変厳しい経営環境の中で、地域のために懸命に経営に取り組ま続けていただいているバス事業者の皆様の切実な声であると、そういうふうを受け止めさせていただきます。ぜひ皆様方の声、これをしっかりと



(鈴木幹事長ご挨拶)

と胸に刻みながらバス事業者の皆様が安心して、事業に取り組むことができる環境を整えてまいりたいと思っております。」とのご挨拶を、次に、国土交通副大臣の酒井庸行先生から、「運転者不足による路線バスの減便・廃止や観光需要に対する供給不足が全国各地で顕在化しており、国土交通省としても危機感をもって



(酒井国土交通副大臣ご挨拶)

おり、そのために運転者の賃上げの原資となる運賃改定を促すため、乗合バス、貸切バスともに他産業と同水準の人件費が確保できるよう、運転者賃上げのため運賃算定手法の見直しや定期改定を進め、同時に自動運転・EVバス導入、二種免許取得支援、特定技能制度の日本語要件適正化を検討し、外国人材確保を促進してまいります。また、軽油暫定税率廃止の早期実現と交付金制度の維持にも取り組み、バス事業者の経営をしっかりと支えてまいりたい。」とのご挨拶をいただきました。

続いて、出席された国会議員の先生方お一人お一人から力強い応援のお言葉をいただき、要望事項5項目の大会決議がバス議員連盟事務局長堀内詔子先生から提案され、満場一致で採択されました。

最後に清水会長の発声によるガンバローコールで総決起大会を終了しました。

